

■1 目的

各校が特色ある教育活動を実践し被災した児童生徒の心身の安定を図り、一人一人の学力が向上する指導を行うとともに、被災中学校生徒の ICT に対応する能力の向上をさせ、将来の職業選択の幅を広げるための教育活動を実践する。

■2 事業費

○事業費決算 12,431,175 円

■3 教育支援事業補助金(100万円補助)事業(各学校の実践)

(1)小学校

- ① 国語の辞書引き学習による学力向上
- ② ICT機器を活用した授業改善
 - 電子黒板対応ソフト、デジタル教科書を活用した指導
 - パソコン、プロジェクター、書画カメラ等教育機器の効果的な活用
- ③ 基礎・基本の定着及び思考力を伸ばす国語、算数のドリル学習の充実
- ④ 先進校視察による教員の指導力向上
 - 筑波大、千葉大、お茶の水女子大、宮城教育大、福島大の各附属小 他
 - 郡山市立芳山小・金透小、盛岡市立仁王小 他
- ⑤ 外部講師を招へいしての研究授業や講演の実施による教員の指導力向上
 - 秋田県教育委員会学力向上担当主任指導主事
 - 筑波大附属小学校教官
- ⑥ 一人学習の手引き・家庭学習の手引きの活用による家庭学習の充実
- ⑦ 教育講演会の実施による保護者啓発
 - 福島大学特任教授
- ⑧ 家庭との連携による生活習慣・学習習慣の確立
 - ノーテレビデー、ノーゲームデーの実施
 - 家庭学習チャレンジ週間の実施



教室
「**小学校の「辞書引き**」



小学校の外部講師
招聘の授業研究

(2)中学校

- ① 各種検定実施による学習意欲の向上と学力向上
 - 漢検、数検、英検、歴史検、理科検等の実施
- ② 先進校視察による教員の指導力向上
 - 新潟県、愛知県
- ③ 外部講師を招聘しての授業研修会実施による教員の指導力向上
 - 授業学研究所

- ④ 週末課題による家庭学習の習慣化
- ⑤ ICT機器を活用した授業改善
 - iPadの有効活用
 - デジタル教材を活用した授業改善
- ⑥ 予備校講師による学び方指導
 - 河合塾NEXT講師
- ⑦ 家庭との連携による生活習慣・学習習慣の確立
 - ノー漫画ウィーク、ノーゲームデーの実施

中学校の外部講師招
聘による校内研修



■4 実施後の変容…各学校の報告書の記述から抜粋

(1) 学校全体

- ① 外部講師の専門的な指導と先進校の授業などから刺激を受け、研修意欲を高めながら、日々の授業に取り組んできた。授業のレベルも向上し、教職員一人一人の指導力の向上が図られた。(S小学校)
- ② 学力に関する危機感から、課題を洗い出し、その改善策をもとに本事業を実施した。学校全体で喫緊の課題として取り組んできた結果、学力向上に対する気運が大いに高まった。(Y小学校)
- ③ 外部講師による講話や学び方の指導を通して、授業の大切さや数学や英語の家庭学習に対する意欲が高まった。(K中学校)
- ④ iPad等のICT機器を効果的に活用する場面が増えた。(I中学校)

(2) 教職員

- ① 日常的に指導法や教材の工夫について話し合ったり、導入や展開を工夫して意欲的に授業に取り組む姿が多く見られるようになった。(S小学校)
- ② 先進校研修では、教員一人一人の見識が高まり、普段の授業に生かすことができた。(Y小学校)
- ③ ほとんどの教員がiPadを積極的に使用するようになった。職員会議をペーパーレスで行うなど教員のスキル及び活用する意欲も高まった。(N中学校)
- ④ 外部講師の熱意あるアドバイス等を聞き、教師自身が自分の授業や指導を振り返るなどの授業改善に取り組む姿が多く見られた。(K中学校)

(3) 児童・生徒

- ① 教員の指導技術の向上により、日々の授業が充実し、児童の意欲的な学習態度が身についてきた。(N小学校)
- ② 高学年児童の多くに、「学力を高めることが自分の将来にとって重要なことである。」という認識が生まれてきている。(I小学校)
- ③ iPad等のICT機器を活用した授業に慣れ、疑問に思ったことをすぐに検索して調べるなど学習意欲が高まってきた。(I中学校)
- ④ 自主学習の継続的な取り組みで家庭学習の時間が増えてきた。また、苦手な教科を学習するなど学習内容も充実してきた。(N中学校)

(4) 保護者・地域

- ① 学校での取り組みを参観やお便り等で発信し、学校への理解も十分に感じられる。家庭学習の習慣化の取り組みにも協力的になってきた。(N小学校)
- ② 「家庭学習チャレンジ週間」が多くの家庭で理解され、取り組みの状況がよくなってきている。学力向上のためには保護者の協力が重要であることが認識されてきた。学校だより等で学校の学力向上の取り組みを知らせることで、地域の方の関心も高まり

つつある。(I 小学校)

- ③ 家庭に英検や漢検等の合格証を持ち帰ることで、保護者の生徒をほめる機会が増えた。生徒の自信につながっている。(N 中学校)
- ④ 各教科・学年での家庭学習についての具体的な指導と家庭学習強化週間(ノーゲーム・ノー漫画ウィーク)の設定による学習時間の確保を、学校評価アンケートで高く評価している保護者が多くなった。(I 中学校)

■5 成果と課題

(1) 成果

- ① 各校の学力に関する課題に応じた取り組みを実施することで、児童生徒の主体的な学習態度の育成や学習習慣の確立が図られた。
- ② 各校では、教員が積極的に研修に取り組む姿が見られ、授業改善への意識が高まりつつある。
- ③ 自校の特色ある取り組みを学校が積極的に発信する学校が多くなった。そのことで、家庭や地域の理解や協力を得ることができた。
- ④ 自校の課題を解決するために、児童生徒の実態にあった学力向上の具体策を策定し、実施、評価することで、各校の学力向上に関するマネジメントサイクルが確立するとともに、学校の主体性が高まった。

(2) 課題

- ① 児童生徒の学習意欲は着実に高まってきている。しかし、児童生徒の思考力・判断力・表現力に課題がある学校は少なくない。今後も、数年のスパンを見通した継続性のある学力向上策を策定し教師の指導力を高める必要がある。
- ② キャリア教育の視点から、同一中学校区での学力向上における連携をさらに進めていきたい。